

2004年10月22日

原子力委員会新長計策定会議議長 近藤駿介 様
新長計策定会議 各委員 様

山内雅一

意見書

先日は青森県で初めての「長計についてご意見を聴く会」を開催していただき、たいへんありがとうございました。しかし核燃サイクル施設の立地県である青森で、この会が今開かれる、言い換えれば今まで開かれなかった、という事が不思議でなりません。もう、2回3回と開かれていて、当然と思います。

当日会場からの意見の際、挙手しましたが指名されませんでした。よって意見書として文書にて提出します。お読み下さい。

私がこの核燃の問題に疑問を持つきっかけになったのは、原子力施設の建設予定地で、只1人自分の土地を手放さず抵抗する方に会い、話をお聞きしてからです。その方の話は、金の力に任せてその地に暮らす人々の生活をめちゃくちゃにし、人と人のつながりを断ち切って行くという、信じ難いような卑劣な手段で土地を買収するというものでした。それからいろいろな本を読んだり、いろいろな会合や講演会、県や原燃の説明会などに参加してみると、この政策の中にはものすごい不合理が渦巻いている事がわかってきました。

何故この政策の中には、こんなに沢山の嘘と、こんなに沢山の隠し事があるのでしょうか。簡単です。それは嘘をつかなきゃ進められない何か、隠さないと問題になってしまう何かがあるからでしょう。

原子力発電は核の平和利用と言いますが、私は核に平和利用などないと考えます。核産業はウラン採掘の時点から、ヒバクや差別などの問題を孕んでいます。私たちの豊かな生活の裏で、ウラン鉱山周辺の人々から始まり、このウラン鉱石が電気へと変わってゆくその過程で、また核爆弾へと変わり、それが使われて行く結果、多くの犠牲者を生み出し、多くの人々が虐げられ続けています。なぜこんな犠牲を払ってまで、この厄介物と付き合っていかなければならないのでしょうか。

人類は大変な物に手をつけてしまったんです。本来ならば自然界に存在しない核種を生み出し、その中にはおそらくこの地球がなくなる時まで、生命の大本である DNA

を傷つけ続けるものまであるっていうのだから、本当に狂気の沙汰です。進めていこうとする方々は、こんな物を地球に残してしまった責任をどうとるのですか？でもこれを残してしまった事は、自分も含め、人類すべての責任です。本当に小さな抵抗でしかありませんが、私は、もうやめましようと言います。

先日のでの意見にもありましたが、「危険だといっても、私たちは電気を使わないわけにはいかないし、電気の 1/3 は原発で作られている」と言います。これは、危ないけど仕方ない、必要悪なんだ、という事です。しかし必要悪をいったらすべての悪が必要悪にすりかえられます。

原子力発電はあまりにも危険が多すぎるし、その傷が深すぎます。六ヶ所再処理工場は世界に類を見ない規模の核施設だと言います。普段の操業でも放射能を放出し、じわじわと環境や私たちを蝕んで行きます。こんな非常識な施設でもし事故が起これば、地球全体を脅かすような、最悪の事態さえ考えられます。最先端技術の集結の様に言われますが、これは時代に逆行した代物です。できた時からツギハギだらけではないですか。

日本の核施設では、今まで幾度となく事故をくり返してきています。そのたびに「今後このような事の無い様に心がけて・・・」とこちらもくり返し言い続けてきています。事故の要因のかなりな割合がヒューマン・エラーでしょう。人間はエラーをおかす生き物なのです。ならば、考えるべきはエラーしても極力安全なツールではないでしょうか。原子力はリスクが大きすぎます。

もっともっと議論すべきです。委員がおっしゃった「進む勇氣」のためには、本当にすべてをオープンにしての、国民的議論が必要なのではないでしょうか。それだけ大きな問題であるという事です。それをせずに進めるという事は、「進む勇氣」ではなく「暴走」です。これまでの国や県、事業者の対応を見る限り、暴走しているとしか思えません。青森県知事に至っては、県民と対話しようともせず、ましてや県主催の説明会にも出席しないにも関わらず、前回の策定会議では「県民の目線にたった情報提供の充実を図る」などと発言しています。この日 知事が策定会議席上で喋った事は、青森では聞いた事がありません。今まで県民からの対話の要請にも応じてきませんでした。何故地元でちゃんとした説明が、ちゃんとした対話ができないのでしょうか。青森県が実施した県民アンケートでも、原子力施設の安全性に 81.6%もの人たちが不安を感じています。しかし 知事は同じ策定会議の席上で、「アンケートはいろんな形でゆれ動く、聞き方によって揺れる事は・・・」と発言しています。

それならば何のためのアンケートなのでしょう。そしてゆれ動くならちゃんと確認しなければならないはずです。特に大事な項目に関しては。それもせずに、何が「まさに信頼の上に安心ができていく」でしょう？

とにかくこの政策に関して、国も県も事業者もやり方が卑怯です。私はこの問題に深く関わる様になってからまだ口は浅いのですが、2年ほど前より、時間の許す限り、県や原燃の説明会、原子力政策懇話会、全員協議会といった公の会から、市民団体、NGO が主催する会などさまざまな催しに参加、傍聴し、質問できる場では質問し、新聞を必ず読む様になり、関連する書籍も少しは読んでみました。疑問は膨らむばかりです。何故こんな馬鹿げた政策が、国策という名の元に平気で行われていけるのでしょうか。素人考えながら、ここにこそ日本の政治と企業のごちゃぐちゃな関係の縮図、そしてエネルギー問題などではない、もっと闇の部分があるのではないのか、などと勘ぐってしまいます。関係されている方々はないといいますが、いろいろなところで圧力がかかっていると言う話も聞きます。とにかく疑惑が多すぎます。

ただ自分の思う事を書き連ねてしまったので、読みづらかったと思いますが、お許し下さい。

人類は核という物に手を出してしまい、これから何千、何億年も消える事がない人工放射能を出現させてしまいました。これをもう増やし続けてはいけません。もし原子力政策をこのまま続けていくというのなら、すべての事実を明らかにした上で、日本の全国民にその覚悟を問う国民投票を実施すべきです。もっと言うなら世界規模の問題でもあります。それだけ重要な問題です。こんな重要な問題を、たった2時間の話し合いで終わらせないで下さい。

再処理をそんなに急ぐ必要はありません。その前に、本当に必要なのは話し合いだと思います。今後も、納得のいくまで議論しあえる場を作って頂ける事を、心から要望します。

連絡先

山内雅一